



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2023 年 10 月 10 日 Vol.2

今回は生活して初めて分かったナミビアの人々や生活様式について、日本との共通点・相違点それぞれについて紹介します。



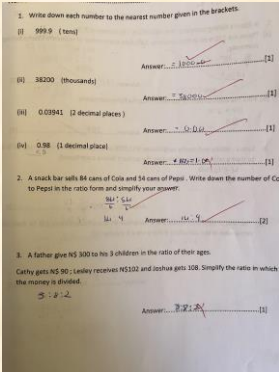
ナミビアと日本の共通点・相違点（人々・生活様式編）

(i) 共通点

1	24 時間表記	アメリカでは 12 時間制が基本で例えば午後 2 時を表すのに 2:00 p.m. と表記しますが、ナミビアでは日本のように 14:00 or 14h00 と表記されることが多いです。	
2	語尾に“ね”を付ける	日本では同意を求める際に「〇〇だよ“ね”？」と語尾に“ね”をつけることがあります。ナミビアでも例えば「合ってるよね？」という時に “Is it correct, ne?” と “ne” をつけて似たような言い回しをすることがあります。この言い方は日本でもよく使っていたため、すぐに馴染むことができました笑。	
3	右ハンドル・左車線走行	車は日本と同じく右ハンドルで左車線を走行します。そのため、日本の TOYOTA や NISSAN、MAZDA 車などをよく街中で見かけます。	
4	レジ袋が有料	日本でも 2020 年 7 月 1 日よりレジ袋の有料化が始まりましたが、ナミビアでもレジ袋は有料です（店によっては無料でつけてくれる所もあります）。そのため、マイバッグを持ち込むことができます。もちろん、マイバッグを使用する場合、レジ袋代はかかりません。ちなみに店員さんからは “Plastic?” と聞かれます。これは「買い物袋要りますか？」という意味です。	

(ii) 相違点

1	ガスよりも 電気がメジャー	<p>これは自分がこっちに来て一番驚いたことですが、例えば料理で物を温める際、日本だとガスコンロを使う所を、ナミビアでは写真上のような電気コンロ（日本のIHのようなイメージ）を使います（同僚に聞いたところ、ガスを使うご家庭もあるようです）。</p> <p>一方シャワーはというと写真下のような“ギザ”と呼ばれる家の天井近くに設置してある電気湯沸かし器（ウォーターヒーター）で水を温め、そこからお湯が供給されます。いずれにせよ文明の利器で物を温める技術があることには改めてありがたいと感じます。</p>	 <p>電気コンロ</p>  <p>ギザ</p>
2	横断歩道がほとんどない	<p>もちろん主要な交差点にはありますが、それ以外の場所には基本的にないため、車と車の隙間を縫って注意して横断することが一般的です。</p>	
3	携帯料金、 電気料金及使用分の先払い	<p>携帯料金、電気料金ともに日本のように月単位の後払いではありません。どちらも使用したい分を先払いするというのが一般的になります。まず携帯についてですがSIMカードを挿入後、写真上の銀行のアプリを通して（このアプリ以外にも購入方法はあります）希望するプラン相当額を課金するとその分が使用できるというシステムです。携帯はおおよそ1週間ごとに支払いが必要です。自分が加入している MTC という会社のよく選択するプランは、500 円いかない程度で1週間に3GBまで（夜 12:00～翌朝 6:00 までは無制限）データ通信できます。</p> <p>次に電気についてですがこれも写真上のアプリを通じて支払いができます。自宅に写真下のような電気メーターがあるため、①自身の電気メーター固有の番号をアプリに入力→②使用したい電気量相当額を課金→③SMS で返ってくる 20 桁の番号を電気メーターに直接入力とい</p>	 <p>この銀行のアプリは左に記載したような料金の支払いだけでなく、口座間の送金もできるため、現金を用意する手間が要らず非常に使い勝手のいいものです。</p>

		った流れです。電気の場合、必要以上に使用しなければ月に 1,600~2,500 円程度です。どちらも携帯経由で手続きできるため、非常に便利です。	 <p>電気メーター</p>
4	スーパーの量り売りのシステム	スーパーには野菜や果物のバラ売りコーナーがあります。それらを購入したい場合、必要分を袋に詰め込む→近くの店員に計量してもらい、値札を貼ってもらう→最後に他の商品とまとめて精算 という手順を踏みます。	
5	スーパーから出る際にレシートと購入品のチェックがある	これは店によるのですが、万引き防止のためです。店の出口に店員や警備員が立っている場合がありますので、レシートと購入品を照合してもらいます。	
6	お客側からも店員さんに挨拶する	カフェやレストランに行けばよく“Good afternoon. How are you?”と挨拶してくれ、お客側からも挨拶を返します。日本ではお客側から店員さんに注文以外で話かける場面は少ないかもしれませんが。個人的にはこの挨拶し合う文化は温かみを感じて好きです。	
7	採点記号が日本と真逆	これは学校隊員には当たり前かもしれませんが、日本では正解を○、不正解を✓とつける所を、ナミビアでは正解を✓、不正解を○(見た感じはギリシャ文字のαに近いです)とします。最初、同僚の先生の丸付けを見ていた際に「やけに間違いが多いな。」と書いていたのですが、後で逆であることに気づきました笑。元々欧米では日本と違うと知ってはいましたが、改めて目の当たりにすると最初は違和感がありました。	

これらのことは生活して初めて知ることができました。同様に赴任前の想像よりナミビアが発展しており、日本以上に便利だなと感じることが度々あります。一方、日本が誇る時間の正確性や値段に対する技術・サービスの質は、自分たち顧客から見えない所での企業・従業員の努力の賜物であることも再認識できました。もっとこの国について知ろうと思います。

次回：ナミビア独自の食文化と通貨について紹介します！